



## Downsizing

(米、136分、1月18日公開)



### あらすじ

近未来の地球、人類による浪費の末、ついに資源はほとんど枯渇してしまう。その対策としてノルウェーのある学者が取り組んだのは、人間を約12センチに縮小する方法だった。身体が小さければ、必要な水も酸素も食料も居場所も相対的に減る、出すごみも減る、という理屈である。研究成果の発表から数年後、件の科学者を始めとするミニチュア人間たちの作り上げた社会Leisurelandの生活が素晴らしく豪華に思えたPaul Safranek(Matt Damon)は、経済的に覚束ない自分の極一般的な市民生活に終止符を打ち、妻と一緒にLeisurelandへの移住を決意する。小さい身体となって目を覚ましたPaulは衝撃の展開を経て、かなり個性的な隣人Dusan(Christoph Waltz)とその友人Konrad(Udo Kier)そして、ベトナムから迫害を逃れ今は掃除婦としてDusan宅で働くNgoc Lan(Hong Chau)と出会い…。

SFであり、コメディでもあり、消費社会への風刺でもあり、環境破壊への警鐘でもあり、移民や互助や福祉等々の社会問題提起でもあり、恋愛もあり。いやはや、それが実に見事に納まっている映画。まるで重箱に巧く詰められたお節料理のよう。

必見は、Christoph Waltzの怪演、もとい快演!

登場場面で「参りました。恐れ入ります」と見る者を唸らせる始末。まあMatt Damonもその安定した演技で庶民を見せており良いんだけど、その画面の一部に映るWaltzがまったく気を抜いていないので、俄然目が離せない。

ベトナム人Ngoc Lan 役のHong Chauも説得力あり。お久しぶりのUdo Kierは控え目な存在感でWaltzを引き立てる。

お気軽に楽しめて、その気になれば思慮深さを促す、美味しいお正月の映画、そんな1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。

